

産業考古学会の概要

Japan Industrial Archaeology Society

産業考古学会は、産業遺産および関連の資料を研究対象として、史料調査を中心とする歴史学的手法とフィールドワーク調査を中心とする考古学的手法により、人間が築いてきた過去の生産活動の実態を科学的に解明し、その歴史的意義を探求する学問です。

産業考古学の研究対象である産業遺産とは、産業の形勢と発展に重要な役割を果たしてきた道具や機械、装置、建築物、施設、土木構造物、それらの図面、写真など、今日に遺されているものを指します。これらは、人類の歴史の重要な部分を実証する資料です。要約すれば、過去の人間の生産活動の結果として遺された有形記録資料の総体が産業遺産です。

日本の産業と経済の発展に重要な役割を果たしてきた道具や機械、工場設備などの労働手段・技術は、生産力増強のための設備更新、新事業への転換などによっていつの間にか消えてしまっているのが現実です。多くの貴重な産業遺産が失われていく状況を憂慮した人々が全国から結集し、1977(昭和52)年、日本に産業考古学会が誕生しました。多くの産業遺産が世界遺産に登録されるなど、世界的に産業遺産をめぐる課題は重要になり、産業考古学の潮流はしだいに世界各国に波及していきました。今日では国際産業遺産保存委員会(TICCIH)が組織され、日本も重要なメンバーの一員として活動しています。

産業考古学は、あらゆる職業の、また多彩な分野の研究者・同好者が参加している「開かれた学会」です。産業考古学・産業遺産研究に関心をもたれる人は誰でも会員になることができます。産業考古学は、産業遺産の調査・研究、産業遺産の保存・活用(保存科学やヘリテージ・マネジメント)に関する研究の推進の他、産業考古学研究および産業遺産の保存の功労者の表彰、価値ある産業遺産の推薦顕彰など多面的な学会活動をしています。



学会事務局
〒113-0034 東京都文京区湯島1-12-5小安ビル6階 株式会社プラス・ワン気付 産業考古学会
TEL./FAX 03-3835-2476(電話の対応は火曜日と金曜日)
郵便振替 00170-1-418882
メールアドレス jias@nifty.com
ホームページURL <http://www.ricoh.co.jp/net-messena/ACADEMIA/JIAS>

名称 ― 産業考古学会
Japan Industrial Archaeology Society (JIAS)
創立 ― 1977(昭和52)年2月12日
創会員数 ― 約600人
会費 ― 個人会員 年額 6,000円(会計年度4月〜翌年3月)
賛助会員 年額1口30,000円(1口以上)



講演会会場
岡山県立図書館多目的ホール 岡山市北区丸の内2-6-30

講演会 お問い合わせ先
岡山近代化遺産研究会事務局
〒700-0931 岡山市北区奥田西町5-5
吉備国際大学外国語学部外国学科 小西伸彦研究室
E-mail: nkonishi@kiui.ac.jp 連絡先: 080-3886-7030

今、「近代化遺産」が
おもしろい！

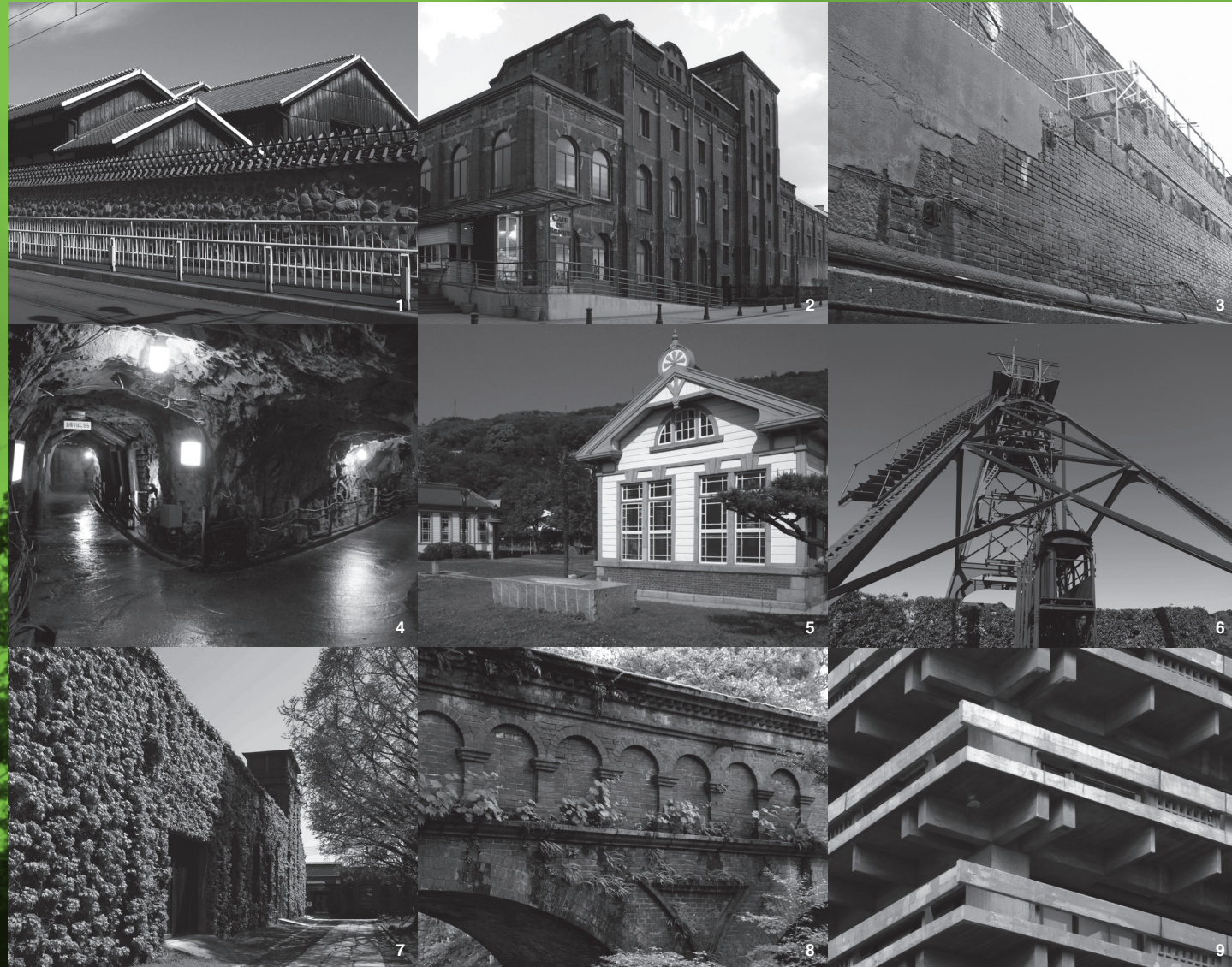
近代化遺産

シリーズ 講演会

会場 岡山県立図書館多目的ホール

「近代化遺産とその景観」

- vol.1 2016年7月16日(土) 13:00▶15:00 *12:30開場
「長崎・出島整備事業と景観の復元」
講師 櫻田美津夫氏 就実大学教授
- vol.2 2016年9月3日(土) 13:00▶15:00 *12:30開場
「醸造業の産業景観 ― 微生物との共生・ヒトとの共生」
講師 中山嘉彦氏 大阪学院大学教授・産業考古学会評議員
- vol.3 2016年11月12日(土) 13:00▶15:00 *12:30開場
「日本とヨーロッパの歴史的造船景観に見る技術文化」
講師 若村国夫氏 岡山理科大学特任教授・産業考古学会評議員
- vol.4 2017年1月14日(土) 13:00▶15:00 *12:30開場
「鉱業と産業景観」
講師 清水憲一氏 九州国際大学特任教授、田川市石炭・歴史博物館副館長・産業考古学会理事
- vol.5 2017年3月11日(土) 13:00▶17:00 *12:30開場
基調講演 「日本の近代水道遺産～都市のアイコン、クロスセクション」
講師 岡田昌彰氏 近畿大学教授・産業考古学会会員
- シンポジウム 「近代化遺産とその文化的景観」
コーディネーター 清水憲一氏 パネリスト 櫻田美津夫氏、中山嘉彦氏、若村国夫氏、岡田昌彰氏



1 出島 2 サクラビール 3 横須賀船渠 4 生野銀山 5 御殿浄水場 6 三井田川鉱業所 7 倉敷紡績本社工場 8 琵琶湖疎水 9 香川県庁

入場料 ― 無料(当日先着120名、全席自由) 主催 ― 産業考古学会/岡山近代化遺産研究会 共催 ― 岡山県立図書館/就実大学史学会/吉備国際大学
後援 ― 岡山県/岡山県教育委員会/岡山県郷土文化財団/岡山市/岡山市教育委員会/大学コンソーシアム岡山/全国近代化遺産活用連絡協議会/おかやま観光コンベンション協会/山陽新聞社
朝日新聞岡山総局/毎日新聞岡山支局/読売新聞岡山支局/産経新聞社/NHK岡山放送局/RSK山陽放送/RNC西日本放送/OHK岡山放送/KSB瀬戸内海放送/TSCテレビせとうち
onビジョン(順不同)
協力 ― 岡山大学/岡山理科大学/大阪学院大学/新見公立大学/新見公立短期大学/ノートルダム清心女子大学/アート印刷株式会社(順不同)

助成 ― 公益財団法人 福武教育文化振興財団 協賛 ― セルロイド産業文化研究所

1

vol.

2016年7月16日^土
13:00▶15:00 *12:30開場

「長崎・出島整備事業と景観の復元」

福沢諭吉は『福翁自伝』のなかで訪米時を回想し、アメリカ人が得々と解説してくれるガルヴァニの鍍金法やテレグラフのことを、とくに日本で蘭書を読んで「チャント知っていた」と度々述べています。江戸時代の蘭学は、本来、支配者層の命を守り（医学）、外夷から国を守る（航海術・砲術）ためのものでしたが、同時に日本の近代化の助走路・跳躍台にもなりました。この蘭学が

生まれ育ったのが長崎の出島でした。そしてその出島が今ゆっくりと往時の姿を回復しつつあります。出島の歴史を振り返るとともに、その景観の復元がいかに行われてきたか、復元を可能にしたのはどんな資料か、今後の整備事業はどうなるのか、などについてお話しします。

2

vol.

2016年9月3日^土
13:00▶15:00 *12:30開場

「醸造業の産業景観 ―微生物との共生・ヒトとの共生」

軽工業の近代化を語る際にまず挙げられる繊維業は昨年の「富岡製糸場と絹産業遺産群」に譲り、今回は比較的身近な醸造業を説明します。例えば、重要科学技術史資料指定・登録の創業期機器と1919年完成の麦芽貯蔵庫が保存されるアサヒビール吹田工場や京都市伏見区・阪神間地区の経済産業省認定日本酒醸造関連遺産の周囲には住宅が密集していますが、みごとに共生しています。

もとより、製品の醸造プロセスでは微生物との共生が欠かせません。今回は「共生」をキーワードとします。大量生産の観点では、ビール業は創業時に、日本酒業は第二次世界大戦後にそれをめざした機器を本格導入しています。新興産業と伝統産業の相違ともいえるこの点も強調します。

3

vol.

2016年11月12日^土
13:00▶15:00 *12:30開場

「日本とヨーロッパの歴史的造船景観に見る技術文化」

大航海時代以降、ヨーロッパでは多くの船が必要とされ、造船所や保守修理施設が各地に設けられました。19世紀、産業革命による技術革新は船と同時に造船や保守・修理施設にも現れました。この頃開国した日本はお雇い外国人の指導で洋式造船所を長崎と横須賀に、また日清戦争後には各地に建設し、ヨーロッパから技術移転を行いました。これらの造船工場はヨーロッパの形がその

まま持ち込まれたのでしょうか、日本に合わせた工夫が行われたのでしょうか。この事は日欧の歴史的造船景観を社会背景、風土、技術の工夫などに注目して比較するとはっきり知る事ができ、技術文化を遺すには景観が必要な事を教えてくれます。本講演では世界遺産を含む日本とヨーロッパの造船施設の写真と図を交えてこれを示します。

4

vol.

2017年1月14日^土
13:00▶15:00 *12:30開場

「鋳業と産業景観」

かつて、とくに高度成長期までのわが国には、数多くの鋳業（金属鋳山・炭田・石灰山）が操業し、エネルギー・金属資源を供給していた。そして現在、それらの多くが、奥深い山中の「つわものどもの夢の跡」と化していました。しかし今や、こうした鋳業遺跡がしずかに注目をあびつつあります。しれはなぜでしょう？ 人々を惹きつけるものは？ 生野鋳山、別子銅山、石見銀山、軍艦

島、そしてとくに足尾銅山、筑豊炭田（黒ダイヤと白ダイヤ）を事例としてとりあげ、(1)システムとしての産業活動をしのぶことができる、(2)つくりだされた鋳業景観＝文化的景観に圧倒される、という2側面から評価します。またそれらがどのように活用されようとしているか、そこでの課題は？ こうした考える材料を提供します。

5

vol.

2017年3月11日^土
13:00▶17:00 *12:30開場

「日本の近代水道遺産～都市のアイコン、クロスセクション」

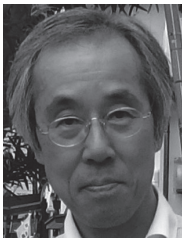
水道は近代都市成立の基礎となる重要な施設であり、公衆衛生の向上に重要な役割を果たしてきました。一方、特徴的な意匠が施されたポンプ室などの各施設に対し、工夫された水道システムとともに文化財的価値が評価され、全国で数多くの施設が国の重要文化財や土木学会選奨土木遺産などに指定・登録されています。一方、2010年に近代水道施設としては初

の国名勝に指定された金沢市末浄水場のように、各浄水場施設の最適配置から生じる空間構成を造園的空間に組み入れた秀逸な造形も確認されています本講演では、日本全国の近代水道施設をその構成システムや各施設の意匠などとともに概観し、さらに地域のアイコン、あるいは都市の姿そのものを炙り出す「クロスセクション」としての可能性を議論したいと思います。

シンポジウム「近代化遺産とその文化的景観」コーディネーター 清水憲一氏 パネリスト 櫻田美津夫氏、中山嘉彦氏、若村国夫氏、岡田昌彰氏

別子銅山東平索道基地

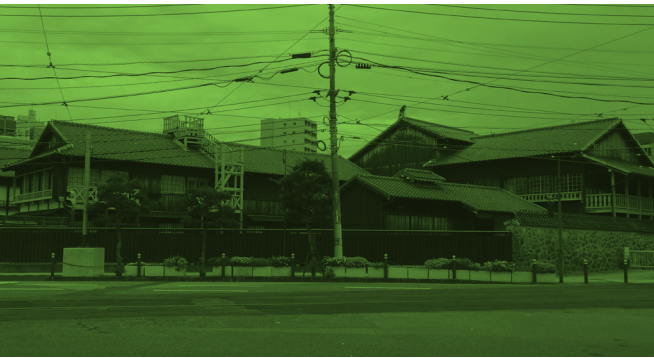
SAKURADA MITSUO 櫻田美津夫



辞典』（講談社、1994、執筆協力）、『角川世界史辞典』（角川書店、2001）、『岩波世界人名大辞典』（岩波書店、全2巻、2013）などがあり、『物語 オランダの歴史』（中公新書、2016）出版予定。
就実オータムアカデミーでは「岡山とオランダ」（2009）、岡山県生涯学習大学で「長崎・出島の歴史とその復元」（2012）など講義も担当。

講師紹介 就実大学人文科学部総合歴史学科教授

オランダ政府奨学生としてオランダ国立レイデン大学に留学（1984-86）。日蘭学会（2011解散）会員。早稲田大学史学会会員。就実大学総合歴史学科長、就実大学人文科学部長（2012まで）などを歴任。
著書には監訳書に『アムステルダム』（同朋舎出版、1997）、共著に『近代ヨーロッパ史論集』（太陽出版、1989）、『ヨーロッパの自由の歴史』（南窓社、1992）、『ヨーロッパの反乱と革命』（山川出版社、1992）、『近世ヨーロッパの東と西』（山川出版社、2004）、『世界史史料』第5巻および第6巻（岩波書店、いずれも2007）、『大学で学ぶ西洋史（近現代）』（ミネルヴァ書房、2011）、『文献解説 西洋近現代史1 近世ヨーロッパの拡大』（南窓社、2012）など、辞典分担執筆に『講談社オランダ語



出島（長崎市） 櫻田美津夫氏撮影

NAKAYAMA YOSHIIKO 中山嘉彦



講師紹介 大阪学院大学経済学部教授

経済発展を支えた機器の技術史、とりわけ鉄道車両技術史を研究し、鉄道友の会ブルーリボン賞・ローレル賞選考委員を歴任。
現在、産業考古学会評議員、近畿産業考古学会副会長、鉄道史学会会員、比較生活文化学会会員、日本経済学会会員、日本金融学会会員、産業考古学会評議員。論文には単著「日本の連節車事始め―京阪電気鉄道60型「びわこ号」と技術的背景―」（『産業考古学』153、2016）、「阪急電鉄と関西文化 考」（『比較生活文化研究』18、2011）、「西武・京王・小田急・東急・名鉄・南海・京阪・阪急・阪堺・西鉄各車両の「音と色」（『鉄道ビクトリアル』特集号、2008-2015）などがある。



松本酒造（京都市）

WAKAMURA KUNIO 若村国夫



講師紹介 岡山理科大学特任教授・産業考古学会評議員

造船施設遺産保存活動そして、浦賀ドック野外ミュージアム設立推進会議代表幹事、日蘭通商400年歴史的造船シンポジウム実行委員会議長、写真展「ヨーロッパと日本の歴史的乾ドック展」を開催。『横浜みなと博物館（2013）』では全面を担当。自然エネルギーの活用とした「瀬戸内自然エネルギー研究会」代表幹事。日欧の技術思考の差異に関心を持ち、日欧の伝統水車の調査に引き続き、15年前から近代化の象徴の造船施設の技術移転を調査。また、これらを保存し活用するための社会活動、自然エネルギー活用啓蒙活動として関係テーマの講演会を開催。
著書には、共著に『環境科学概論（大学教育出版、第2版 2013）』責任編集として『資料集「日本とヨーロッパの歴史的乾ドックに見られる技術交流」（東京・船の科学館 2012）。関係論文には単著として"Evidence of modernized technology transfer found on the size, structure, and materials of historic dry docks in Europe and Japan", Selected papers of the XVth Int. Congress of the Int. Commit. for the Conserv. of the Industrial Heritage (Taipei, 2012)、共著として"Japanese soil brick dry docks built with technology transfer from the Netherlands", the 400 years anniversary symposium on historic dockyards in Japan and the Netherlands (2009)、「浦賀船渠および石川島造船所川岡工場の乾ドックに煉瓦が使用された経緯」（『産業考古学』129、2008）などがある。



石積み乾ドック係留の木造帆船、蒸気駆動クレーン、屋根付き船台（イギリス・チャタムドックヤードミュージアム） 若村国夫氏撮影・提供

SHIMIZU KENICHI 清水憲一



講師紹介 九州国際大学特任教授・田川市石炭・歴史博物館副館長兼付属研究所長

1983年英国バーミンガム大学に留学しアイアン・ブリッジ（世界遺産）と産業考古学に触れる。九州国際大学経済学部長、研究科長、元学長を歴任。専門研究は官営八幡製鐵所の創立期研究、北九州地域史研究。
現在、九州国際大学北九州地域史研究会代表、産業考古学会理事。『新修北九州市史』編纂委員、門司港駅舎復元検討委員、足尾銅山そして佐賀市三重津海軍所跡の史跡検討委員、「九州・山口の近代化産業遺産群」ユネスコ推薦書作成委員（2014）、文化庁世界文化遺産特別委員会委員（2016年3月まで）。
著書には共著に『北九州市史 近代現代 産業経済編Ⅰ』（北九州市、1991）、「わが故郷八幡」（北九州八幡信用金庫、1995）、編共著に『北九州市産業史』（北九州市、1998）『北九州の近代化遺産』（弦書房、2006）、「官営八幡製鐵所創立期の再検討」（科研費報告書、2008）などがある。



豊春岳（福岡県） 清水憲一氏撮影

OKADA MASAAKI 岡田昌彰



講師紹介 近畿大学理工学部社会環境工学科教授

文部省学術国際交流制度でワシントン大学都市計画デザイン学科に交換留学、日本学術振興会特別研究員、株式会社社長大構造事業部、国土交通省国土技術政策総合研究所沿岸海洋研究部研究員、東京大学アジア生物資源環境研究センター研究機関研究員、英国ケンブリッジ大学マクドナルド研究所客員研究員などを歴任。大阪市都市景観委員会委員、伊丹市都市計画審議会などのほか、金沢市末浄水場園地整備指導委員会委員、奈良県近代化遺産調査委員会副委員長、大阪府・和歌山県近代化遺産調査委員会委員など土木・産業遺産関連の公職にも多数従事。土木学会土木史研究委員会幹事長、同関西支部選奨土木遺産支部推薦委員会委員のほか、ICOHTEC、TICCIH（日本支部）など内外の学会においても委員を歴任。
現在、土木学会、日本造園学会、都市計画学会、産業考古学会、TICCIH会員。専門は景観工学、土木史、ヘリテージタディ（主に土木遺産、産業遺産）、著書・単著に「テクノスケープ～同化と異化の景観論」（鹿島出版会、2003）、共著にIndustrial Heritage Re-Tooled: The TICCIH Guide to Industrial Heritage Conservation (Carnegie Publishing Ltd, 2013)、日本の土木遺産（講談社、2012）、図説日本の近代化遺産（ふくろうの本）（河出書房新社、2007）などがある。



半田山配水池（岡山市）

撮影者名を記載していない近代化遺産のイメージ写真は小西伸彦撮影